

2026 年度 認定医申請のご案内（新規）

I. 乳腺認定医新規申請資格

- ・日本国の医師免許証を有すること
- ・2022 年 1 月 31 日までに入会し、継続 4 年以上本学会会員であること
- ・会費を完納していること
- ・臨床研修終了後、日本専門医機構が認定した乳腺外科カリキュラムの基幹・連携施設、もしくは本学会が認定した認定・関連施設において所定の研修カリキュラムに従い、常勤医もしくはそれに準ずる勤務体制で通算 2 年以上修練を行っていること
※非常勤の場合は、常勤に準ずる勤務である旨の施設長による勤務証明書が必要
(書式自由 但し、勤務形態等、常勤に準ずる勤務と判断した根拠を記載)
- ・基幹・連携施設、もしくは認定・関連施設において、認定を受ける専門分野の症例で通算 40 例以上の乳癌症例の診療経験があること（専門分野とは、手術療法、薬物療法、画像診断、放射線治療の中から認定を受ける分野）
- ・研究業績として、1 編以上の乳腺疾患に関する筆頭論文、または本学会の学術総会もしくは地方会で 2 件以上の筆頭発表があること
- ・研修実績として、3 年以内の本学会総会の 1 回以上参加、および 5 年以内の乳腺専門医・認定医セミナーの受講があること

II. 申請期間

2025 年 12 月 1 日～2026 年 1 月 31 日 23:59

申請書類は会員ページ（以下、My Web）よりデータにてご提出していただくこととなりました。郵送での申請を希望される場合は別途手数料 5,000 円が必要となります。詳細は IV. 申請料・提出方法にてご確認ください。締め切り直前の問い合わせには対応できないことがありますので、日数に余裕をもって申請してください。尚、申請期間を過ぎての申請は受理できません。

III.提出書類

作成にあたっての注意事項

- ・虚偽の記載が判明した場合には、申請者及び施設の認定を遡って停止となる可能性があります
- ・専門分野として、手術療法、薬物療法、画像診断、放射線治療の4分野に分けて認定します
- ・旧書式による申請書類は受けません、最新版をダウンロードしてください
- ・必ず手元に申請書類を保管してください
事務局より、申請書類について問合せをする可能性があります
- ・Excelのまま提出するものとPDFにして提出するものがあります（VII.参照）
いずれもVIIチェックリストにあるファイル名にして提出してください

1) 乳癌認定医(新規)申請書

- ・まず始めに、My Web の登録内容のアップデートを行ってください。
- ・申請書は My Web の「資格情報確認・申請」から申請に進んでいただき、ダウンロードしてください。My Web <https://jbcs.members-web.com/login>
- ・必要箇所をご入力ください。

2) 医師免許証（写）

3) 2004年以降の医師免許取得者は臨床研修修了証（写）

4) 基幹・連携施設、認定・関連施設での修練修了証明書（施設ごとに1枚提出すること）

- ・非常勤の場合は常勤に準ずる勤務である旨の施設長による勤務証明書を添付
(書式自由 但し、勤務形態等、常勤に準ずる勤務と判断した根拠を記載のこと)
- ・産休、育休については修練期間には含まれない。

5) 研究業績一覧

- ・乳癌疾患に関する研究業績が下記①～②のいずれか1つを満たしていること
 - ① 査読を伴う学術雑誌に、筆頭者として乳癌疾患に関する原著あるいは症例報告を1編以上
 - ② 本学会の学術総会もしくは地方会で筆頭発表2件以上
- ・以下のような証拠となる業績のコピーを添付

【論文】

- ・論文の題名・所属・発表者名・論文全ページを添付し、自身の名前が確認できるように赤丸で囲むこと。

※2026年1月31日の締め切りまでにアクセプトされ、掲載予定の論文は掲載証明書（アクセプトメール可）の提出と論文原稿があれば認める

- ・学術誌、医学誌、病院誌であること（投稿要綱から、査読システムを確認できるものであること）（商業誌不可*）

*一般向けの商業誌。「乳癌の臨床」「癌と化学療法」など、市販されている査読を有する医学誌は可

【学会発表】

- ・抄録集に掲載の抄録ページを添付し、自身の名前が確認できるように赤丸で囲むこと。
過去の乳癌学会学術総会の抄録については、会員専用ページにて閲覧可能

6) 研修実績一覧

- ・3年以内の本学会の総会1回以上の参加があること
- ・本学会教育・研修委員会主催の乳腺専門医・認定医セミナーの5年以内（2021年以降）の受講証明があること
- ・上記実績の証明として、総会参加証・セミナー受講証を添付すること
総会参加証は、日本外科学会等の学会参加情報の照会ページのPDF添付でも可

7) 診療経験

- ・手術療法、薬物療法、画像診断、放射線治療の中から認定を受ける分野において、40例以上の乳癌症例の診療経験があること
- ・乳癌の確定診断のついた症例のみ記載すること（良性・疑いは不可）
- ・画像診断、放射線治療、薬物療法を選択した場合は、乳癌症例記録に詳細なレポート10例との診療経験目録30例を提出する

各診療領域の条件については、以下の通り定める

【手術療法】

- ・NCD検索システムより抽出した症例数を、修練した施設ごとに記載する
- ・NCD登録（承認済み）が条件のため、NCD検索システムより施設・術式ごとに抽出したリストを提出する
2026年1月までの症例を提出できるが、2025年1月以降に経験したNCD未承認症例は、診療経験目録に病院長による証明が必要
- ・NCD登録が行われていない2012年以前の症例、または2025年以降のNCD未登録症例は別途、乳癌症例の診療経験目録（手術療法）を記載する
- ・症例は術者に限る（助手は不可）
- ・術式はホームページ内【[NCD抽出条件](#)（手術療法でのご申請の場合）PDF】をご参照ください。

【画像診断】

- ・乳癌症例記録（10症例）には、初診年月・診断手技・病理組織診断確認日・病理組織診断名の記載が必須、記載例に倣い、画像診断の詳細（所見やカテゴリー診断など）および診療内容を記載すること
- ・診療経験目録（30症例）には、初診年月・診断手技・病理組織診断名を必ず記入する

- ・経験症例には、組織診断による癌の診断確定を得ていることが必要（細胞診による診断は不可）

*申請者自らが針生検などにより病理組織診断を行わなくても、最終的に”組織診断による乳癌の確定診断を得ていること”のフィードバックを受け、自らの画像診断の精度管理を行っていれば、この要件をクリアしていると判断します
- ・再発・転移に対する診断は認めない

【放射線治療】

- ・乳癌症例記録(10 症例)には、初診年月、原発、進行・転移再発、病理組織診断名、術式、照射部位、照射期間、照射線量、診療内容の記載が必須、記載例に倣い診療内容も記載すること
- ・診療経験目録 (30 症例) には、施行期間、原発、進行・転移再発、病理組織診断名、術式、照射部位、照射線量を記入すること

【薬物療法】

- ・転移再発症例での治療経験を 40 例中 10 例以上提出することとし、乳癌症例記録に詳細を記載する
- ・乳癌症例記録 (10 症例) には、初診年月・病理組織診断名・HR・HER2・治療ライン（術前/術後/進行・転移再発）・レジメ、薬剤名・投与期間・診療内容の記載は必須、記載例に倣い診療内容も記載すること(10 症例中、5 例以上転移再発症例を必須とする)
- ・診療経験目録 (30 症例) には、施行年月・治療ライン（術前/術後/進行・転移再発）・病理組織診断名・HR・HER2・レジメ・薬剤名を記入すること。
- ・周術期薬物療法の症例は、殺細胞性抗癌薬に限る。(ホルモン療法・分子標的治療のみ及びその併用は不可^{*)}) また、初回投与開始症例のみに限る。

※術前化学療法 A を行い、術後治療 B を行った場合でも、1 例と扱い、別個に掲載しない、つまり治療レジメをダブルカウントしないこと。

- ^{*)} HER2 陽性乳癌における T-DM1 のみは不可（術前治療からの担当が必須）。
また、Olaparib+ホルモン治療、Abemaciclib+ホルモン療法も、基本ハイリスクなので化学療法からの担当が必須。化学療法を実施しない場合はその理由根拠が明確であれば可。
- ・転移再発症例は、初回投与に限らず提出可能であるが、同一患者で提出可能なのは 1 レジメまでとする。(同一患者において治療の継続やレジメの変更で提出することは不可)
レジメは転移再発乳癌に保険適用となっている治療法であれば、その種類を問わず申請可能である。(殺細胞抗癌薬のみに限定しない) 臨床試験や治験症例であれば保険適用外例も可とする。

《申請書類における患者個人情報の保護について》

- ・申請書類入力にあたっては、個人が特定出来ないよう施設の個人情報取り扱いに関する規定を順守すること
- ・施設監査を行った際にスムースに診療録や手術記録とつき合わせ確認が出来るようにしておくこと

IV. 申請料・提出方法

申請料：10,000 円

My Web より申請書類のアップロードと申請料の支払い（クレジットカードでのお支払いをお勧めしております）をお願いいたします。詳しい申請方法については、別途「申請手順」をご確認下さい。Excel のまま提出するものと PDF にするものがありますので、VII. チェックリストにて事前にご確認ください。受領メールはお送りいたしませんので、My Web にて申請ステータスが「申請済」になっていることをご確認ください。

なお、既納の申請手数料は、いかなる理由があっても返却いたしません。

<データでの提出が難しい場合>

データでの提出がどうしても難しい場合は、郵送での提出を受付けます。

まず、My Web の「資格情報確認・申請」より「郵送による資格申請を依頼する」をクリックしてください。

郵送で提出する場合は別途 5,000 円の手数料が必要となりますので、申請料 15,000 円（申請料 10,000 円+手数料 5,000 円）を My Web よりご入金いただき、配達記録が残る簡易書留、レターパック等で事務局宛にお送りください（2026 年 1 月 31 日必着）。

郵送にて提出される場合は一部を郵送ではなく、全ての申請書類を郵送でお送りください。

〒103-0027

東京都中央区日本橋 3-8-16 ぶよおビル 3F

日本乳癌学会 宛 まで

V. 審査結果について

合否通知は MyWeb にご登録いただいたメールアドレス宛に通知いたします

合格者には認定料(40,000 円)の入金を確認次第、MyWeb にご登録いただいている書類送付先に認定証を発送いたします

VI.問合せ先

日本乳癌学会事務局 office@jbcs.gr.jp

申請要件に確認事項がある場合は、ご遠慮なく事務局までお問合せください。

なお、正確を期すために、電話でのお問い合わせはお控えください

VII.チェックリスト

① 乳癌認定医(新規)申請書

⑤ 研究業績一覧

⑥ 研修実績一覧

<ファイル名>ns_1.5.6_氏名

※Excel のままでひとつのファイルで申請

申請書のフォーマットのまま、PDF にしたシートや選択しなかった領域のシートは削除せず空白のまま提出

② 医師免許証（写）

③ 臨床研修修了証（写、2004 年以降の医師免許取得者）

<ファイル名>ns_2.3_氏名

※②と③の証明書をまとめて一つの PDF にして申請

④ 基幹・連携施設 / 認定・関連施設修練修了証明書

<ファイル名>ns_4_氏名

※公印をもらった後、④を PDF にして申請 ※施設ごとの証明が必要

非常勤の場合、常勤に準ずる旨の勤務証明書も合わせて一つの PDF にする

⑦ 症例記録および診療経験目録

<ファイル名>ns_7_氏名

※公印をもらった後、⑦を PDF にして申請 ※施設ごとの証明が必要

手術療法のみ、症例数の目録の添付書類として

NCD 検索システムによる検索結果リストの PDF (施設ごと、術式ごとに抽出)

<ファイル名>ns_NCD_氏名

研究業績一覧の添付書類として

論文のコピー

<ファイル名>ns 論文_氏名

学会発表等の抄録

<ファイル名>ns 発表_氏名

※論文、抄録は論文と抄録に分け PDF にて申請

(どちらか一方の提出で結構です)

研修実績一覧の添付書類として

- 日本乳癌学会学術総会参加証
- 乳腺専門医・認定医セミナー受講証

<ファイル名>ns 参加証_氏名

※参加証、受講証をそれぞれ PDF にして申請

* ご留意ください *

押印箇所に押印がない、提出する書類が添付されていない等の基本的な不備は、

委員会における審査で不合格となる場合もございます。

申請前に必ず書類をご確認ください。